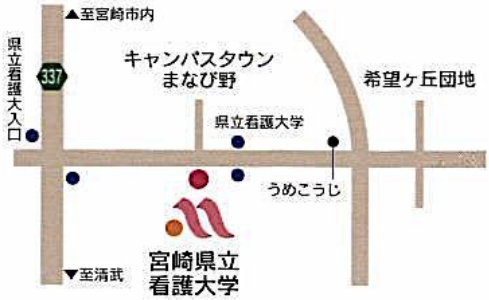
第52回 KTSM 実技セミナー in 宮崎③ 開催報告

●開催概要 KTSM 実技セミナー 基本コース

「KT バランスチャートを用いた包括的食支援技術」
姿勢調整・スクリーニング評価・実施手技・アセスメント・食事介助など

「口から食べる」支援，つまり，経口摂取を早期に開始したり，継続したりするための支援が必要である．そのためには安全に評価し，経口摂取開始する食事介助技術（スキル）が必要であり，まずは医療従事者の基礎知識・スキルの向上がさらに重要であると考えられる．
今回，安全で効果的なベッドサイドスクリーニング評価，食事介助の基本的事項について学び，そのスキルを習得してもらうことで，嚥下障害者の良好な機能を活かすことができる評価スキル，より安全にセルフケア能力を高めることを意図とした食事介助のスキルアップを図りたいと考えた．
実習を通して食事介助スキルを学び，「口から食べる支援技術の精度」の高い人材の育成，さらに地域にそのスキルを伝達できる人材の育成を行うことを目的とした．

会期：平成29年8月20日（土） 9:00～13:00
会場：宮崎県立看護大学
受講者：60名（申込者62名）　見学者：12名
（図１および図２参照）
主催：口腔リハビリテーション研究会
共催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会
協賛：社会福祉法人キャンバスの会
株式会社 カクイックス
後援：株式会社 大塚製薬工場
日清オイリオグループ
株式会社株式会社 クリニコ



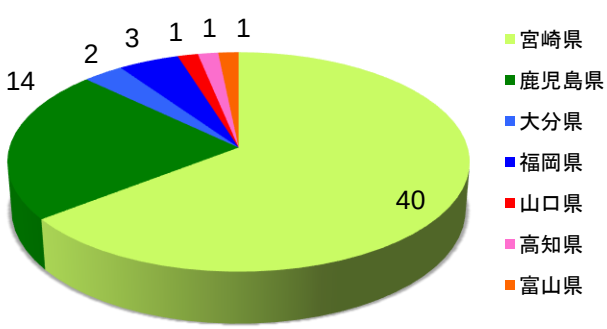


図１　県別受講者数［人］

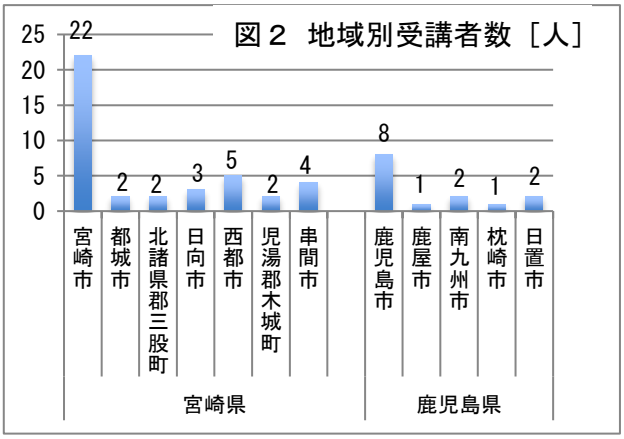


図２　地域別受講者数［人］

●プログラム概要

1．口から食べることをサポートするための包括的スキル　「KT バランスチャートの活用と支援」【講義】
2．安全に食べられる為のベッドサイドスクリーニング評価および食事介助技術　【講義】
3．早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価　【演習】
4．体幹角度、食物形態を考慮した、安全で効率的な食事介助方法　【演習】
5．車椅子での食事介助の基本姿勢，セルフケア能力を高めるための食事介助技術　【演習】
6．全体まとめおよび質疑応答

●担当講師およびアドバイザー

敬称略

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
竹市 美加 （兵庫）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
伊豆元美恵 （宮崎）	こどもとおとなの訪問看護ろけっと★ステーション 口腔リハビリテーション研究会	看護師
清山 美恵 （宮崎）	アート歯科マツダ 口腔リハビリテーション研究会 代表	歯科医師 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士）
外山 慶一 （宮崎）	潤和会記念病院 口腔リハビリテーション研究会	言語聴覚士 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士）
井野美穂子 （熊本）	熊本リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
下田 加奈 （熊本）	訪問看護ステーション Cruto	看護師 KTSM 実技認定者
榎本 淳子 （熊本）	玉名市社会福祉協議会	看護師，社会福祉士 KTSM 実技認定者
山下 裕史 （熊本）	熊本リハビリテーション病院	言語聴覚士（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） （認定言語聴覚士 摂食嚥下障害領域） KTSM 実技認定者
建山　幸 （熊本）	桜十字病院	看護師
田平 佳苗 （熊本）	国立病院機構 熊本医療センター	摂食・嚥下障害看護認定看護師 看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
安部　幸 （大分）	社会医療法人　帰巌会　みえ病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者

小山先生，竹市先生を始めとするアドバイザー11名に加え，サポーターとして右の９名の方々がお手伝いくださいました.
開催場所として御提供・御協力いただき，宮崎県立看護大学助教の中角吉信先生，原村幸代先生にもご尽力いただきました.
さらに，昨年に続き，13 名の宮崎県立看護大の学生さん（３年生，４年生）も学生サポーターとしてお手伝い下さいました.

サポーター　一覧

	氏　名	所　属
1	中角吉信	宮崎県立看護大 助教
2	佐藤龍馬	豊後大野市民病院
3	金子美和	デイサービス未来図 口腔リハビリテーション研究会
4	伊豆元和三	口腔リハビリテーション研究会
5	甲斐清美	社会医療法人　帰巌会　みえ病院
6	広瀬庸介	社会医療法人　帰巌会　みえ病院
7	安部美弥子	社会医療法人　帰巌会　みえ病院
8	奥村あゆみ	いしかわ内科
9	原村幸代	宮崎県立看護大 教員
10	富澤美穂	生協 Hp　訪看看護師

●研修会風景

★小山先生とアドバイザー，スタッフ紹介

右：小山先生

さてさて，まず挨拶．
１G～11G のアドバイザー自己紹介，司会者からの諸説明がありました．
いざ，小山珠美先生，竹市美加先生の講義へ！！

★講義

●口から食べることをサポートするための包括的スキル
「KT バランスチャートの活用と支援」（小山珠美先生）

●安全に食べられる為のアセスメント，スクリーニング
評価および食事介助技術（竹市美加先生）

ハッと気づかされること，これまで間違ったやり方・考え方をしていたこと，新しく学んだこと，自分たちにもやれることがある！こと，もっともっと色々なことを教えて頂きました．

★ポジショニング，スクリーニング検査

ベッド上でのポジショニングを学びました．
頭抜き・背抜き・尻抜きを初めて聞く方も！

『正しい』ポジショニングは，こんなにも“楽”です！

姿勢と解剖学との関係も学びました．

各ベッドにはアドバイザーが付き，指導を受けました．

リクライニング角度 30 度へ．
まずは，アドバイザーが実演することも．受講者は必死で見入ってます！

スクリーニング検査について学びました．

小山先生が廻って来られて，追加指導もしてもらいました．
ポジショニンクの重要性を知りました．

“こんな感じ”は決して許されません．

しっかりとポジショニングしなければなりません．
受講者の中には，「うわ～っ！！」「こんなに風にしたことないなぁ．厳しいけど，こんなに楽に寝られるとは思いませんでした」との意見も！
「初めて知りました．『既製品』やら『介護専用』のクッションを使うだけでなく，手元にある，タオルや掛け布団でも『ちゃんと』使えるんだぁ」との受講者からの意見も．
学びの場，学びの事象は，この後も続々！！

★食事介助（全介助，一部介助）

全介助
（リクライニング角度 45 度）

リクライニング角度 30 度のときのクッションなどの位置も変えました．

＜学び＞
オーバーテーブルの位置
患者役の頭頸部の保持の仕方や角度，視線
上肢の位置　　…など

介助の方法も，アドバイザーから手添えで教えてもらうこともありました．

お盆を傾けて，食事を患者役の視界にしっかり入れる，しっかり見せることで，視覚的なアプローチがこんなにも重要だということも学びました！
介助者の立つ位置も学びましょう．

★さて，休憩中ですが…

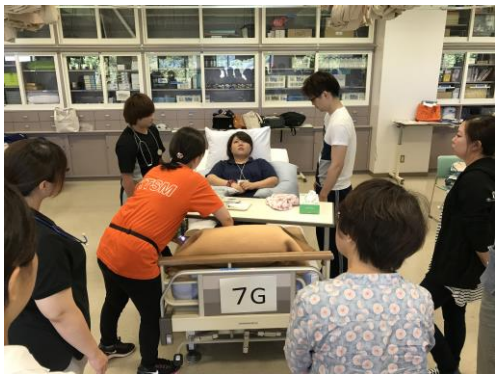
この日は，とても暑い日でした．
受講者はもちろん，アドバイザーも熱くなりましたが，「熱中症対策に水分補給を！」とずっと言っていました．
が，強制的に休憩時間を取っても，受講者の熱は冷めることなく…
　質問はいつまでもどこまでも続く…

★車椅子での食事介助の基本姿勢，セルフケア能力を高めるための食事介助技術

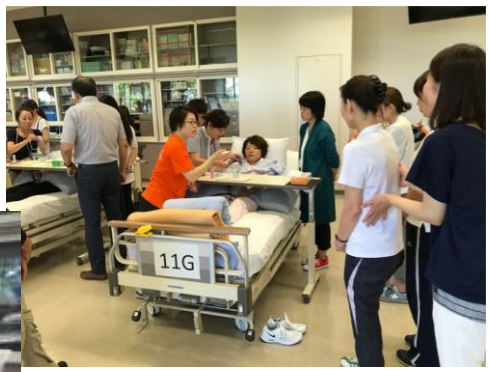
足元に注目！！
フットペダルは使わない．しっかりと足を“地につける”，接地面積を広く確保する．
適切な高さのものを，近くにあるもので代用することで，よりよい姿勢保持に繋げることができる．
両肘の位置，安定させるためのポイントを押さえること．

★最後に，小山先生による『全体まとめおよび質疑応答』
　実技を終え，改めてたくさんのことを学びました！！

●各グループ（1G ～ 11G ）



1G ～ 11G です！
各アドバイザーの指導の下，各項目の演習を実習しました！
受講者皆さん，一生懸命受けられています！



セミナー開始前の One Scene

どんなに慣れたアドバイザーも繰り返し繰り返し復習！

そして，万全を期して演習スタートに臨みました！！

●開催概要について

図３　職種別受講者数

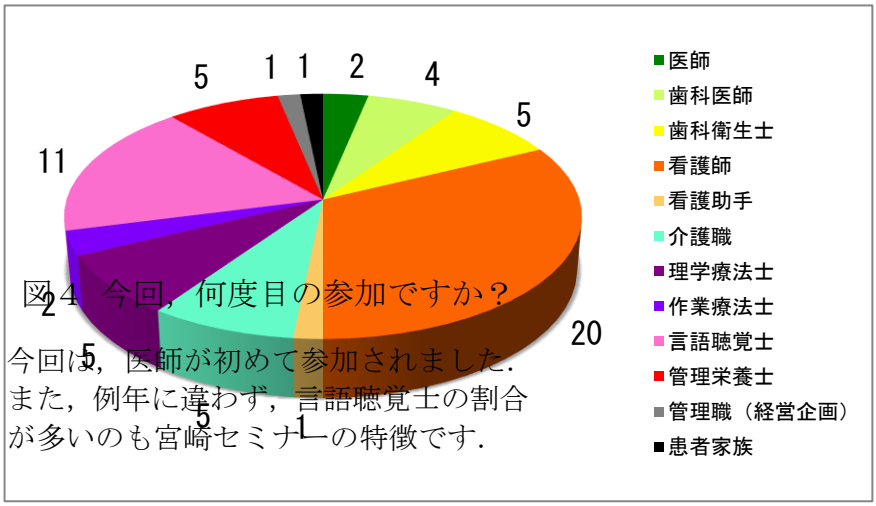
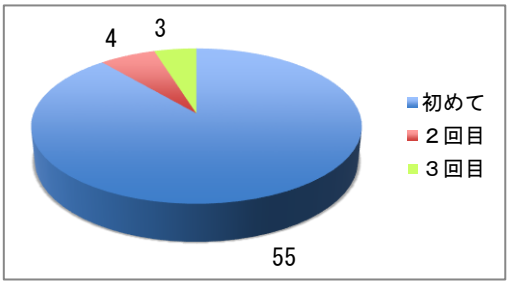
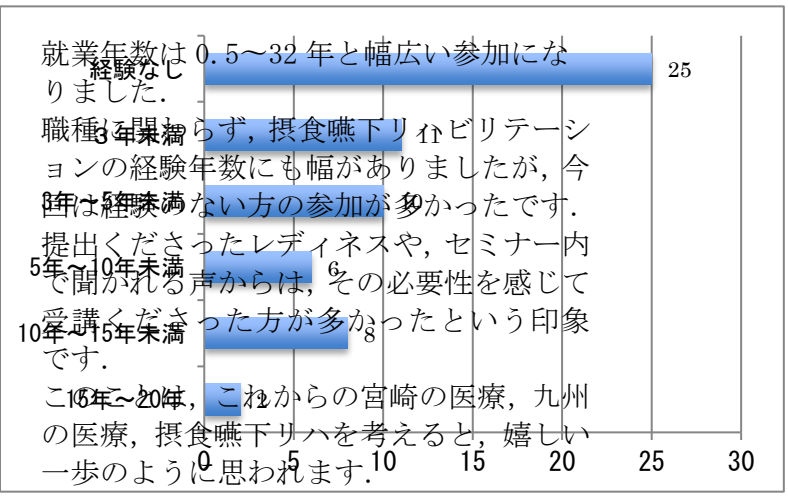


図４　今回，何度目の参加ですか？

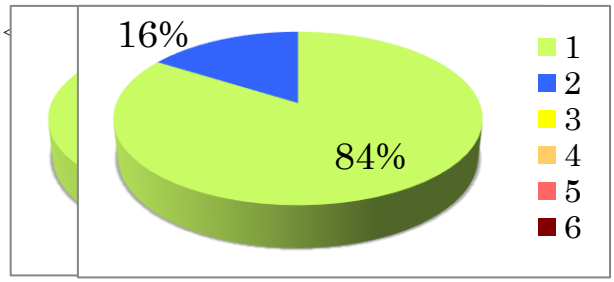


今回は，医師が初めて参加されました．
また，例年に違わず，言語聴覚士の割合が多いのも宮崎セミナーの特徴です．



就業年数は 0.5～32 年と幅広い参加になりました．
職種に関わらず，摂食嚥下リハビリテーションの経験年数にも幅がありましたが，今回は経験のない方の参加が多かったです．
提出くださったレディネスや，セミナー内で聞かれる声からは，その必要性を感じて受講くださった方が多かったという印象です．
これからは，これからの宮崎の医療，九州の医療，摂食嚥下リハを考えると，嬉しい一歩のように思われます．

ⅲ）本日のセミナーの参加目的から考えると，摂食嚥下技術に関するその目的は達成されましたか？



ⅱ）研修内容で特に印象に残った点は何ですか？

★総合的印象

・患者様目線で対応できていなかったこと、スキル不足、勉強不足を実感しました。環境、姿勢の調整がいかに大事かということがよく分かりました。
・実技の体位調整、環境整備の重要性・大切さを感じた。
・ポジショニング、スプーンの運び方、スクリーニングの方法
・適切な食事介助を行う事で、患者さんの「食べる」を支援することができるのだという事を改めて感じた今回学んだことを職場スタッフに伝えていきたい

★ポジショニング

・ポジショニング等ちょっとした気づきがあれば、より安楽に食べるという動作を遂行できることが実感できました。
・ポジショニング、環境調整の重要性、自分の技術が自己主体であることを痛感させられました。
・ヒジの位置姿勢１つで食べたいと思うか思わないか
・ポジショニング（ベット上、車いす）の大切さ、背抜きの重要性
・ポジショニングの方法によってカラダに力が入ったり、楽になったりすることで食事の摂取（飲みこみやすさ）が変わる。介助者によって作られている事と実感しました。
・体幹の固定にこだわっていたが足の固定も重要な事がわかった。
・ポジショニングの中で椅子や車いす乗車時の食事の際足を床におろしてポジショニングする事が印象に残り実践して行きたいと考えている。
・状況に応じたポジショニングが重要
・車椅子の背面のサポート
・円背の方のポジショニング（ベット、車いす）食事介助方法
・姿勢だけで誤嚥のしやすさが全く違うことを体感できたことが1番の収穫です。介助することは栄養士はほとんどないですが、今後介助力・知識が必要だと強く感じました。

★スプーン操作

・スプーンをすくう時の角度や、足底サポート時のタオルを足の重さで支えることなど
・食事介助の際にスプーンを舌のどの部分におくかで食べやすさが非常に変わるという点に気づけました。

★介助スキル

・食べさせ方が患者様視点ではなく、自分本位であったことが自分の中で印象的であった
・食事介助の仕方が、全くできていなかったことに反省した
・患者様目線に立ち、安心で安楽した体位での食事介助を行っていきたい
・今までは飲み込むタイミングを待っていたので、こちらでリズムをつかむことを学んだ
・食事介助時、患者さんの五感を使い、記憶をよみがえらせながら、介助する事はとても大切なことで、業務の中で忘れてしまっていた。今後、きちんと行っていきたいと改めて感じた
・頭ではわかっていても、つい自分本位になっていることが多かった。ポジショニングをしっかりと行い、患者様の食べたいという意欲に応えられる様、食事介助のスキルアップを図りたい
・食事介助のペースやスプーン運びについてなど、現場での実践が足りていないことを痛感した
・食事介助時の手の添え方
・「食事介助」には大事なポイントがあり、技術での向上が誤嚥予防につながる。
・食事介助はとても技術のいることだと思いました
・改めて食事介助のスプーンの運び方や食事を置く位置などを再確認する事が出来ました。

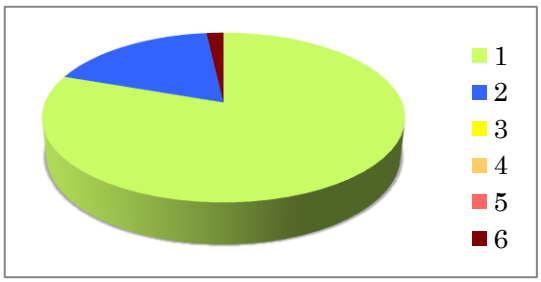
★患者役

・実習に患者役になって悪い例の場面が特に印象に残っています。病院で多くそのような光景をみるので介入していこうと思います。
・食べる側の感覚を体験できたこと。
・患者体験を行い、クッションの位置一つで支えられている感じ等、全く違ってとても大切だと感じた
・患者側になっての姿勢作りや食事介助を行う時の位置、タイミング
・患者さんからの視点がわかり、普段の介助で誤っていた点について気付く事が出来た。
・患者側になって介助を受け、食べにくかったり姿勢１つで安楽になったので患者様の気持ちを知る事ができ良かった
・実際に患者さんの立場で食事介助をされてみるとほんの少しの位置の違いやスプーンの入れ方なので楽に食事がとれるかどうかの違いを知ることができました。なので食事介助の技術がどれだけ大事かを学ぶことができました。
・患者様の立場になって体験できた事。患者様の寝ごこち　居ごこち　座りごこちを良くして食につなげたいと思いました。
・実際に患者様（片マヒ）を体験させて頂き、食べにくい姿勢で初めて患者様の立場になり今後接し方など変わってくると思うし、変わらないといえないと思った。ポジショニング１つで安楽な姿勢になること、１つの手間で看護も変わることを知る事ができました。

・患者体験を通して、姿勢を整える事がこんなにも安楽に食事がとれることにつながるのだと、感じることが出来た。また、普段の業務の中で、多くの患者さんを食べさせなければという意識から、職種を問わず危険な食事介助をされるスタッフを見かけるが、職場のそういった雰囲気を変えるためにも、声をあげられるスタッフの１人になりたいと思った。

★その他
・誤嚥性肺炎は食べてから治すという言葉が印象に残っています。
・誤嚥性肺炎は、食べながら直す。エビデンスを医師に伝え、認められる様実践をつけたい
・誤嚥性肺炎の食事療法の考え方や演習時の細かな指導
・一人一人に細かいご指導を行っていただきました
・今は、出来ないとあきらめていた事を、どうしたら出来るのかを考えると小山先生の話を聞いて痛感しました
・受講者が積極的に、食事支援にかかわる人たちに伝えていく事の大切さ
・ジャンプ台を導入する。
・データに残していく

ⅳ）今後の実践場面で活用できると思いますか。
また，活用できる場合はどんな場面で活用できるか具体的にご記入ください。
活用できない場合の理由もお願いします。



＜凡例＞
1. かなりそう思う
2. まあまあそう思う
3. ふつう
4. あまり思わない
5. ぜんぜん思わない
6. 無回答

★ポジショニング
・食事介助時のポジショニングの方法（車椅子、ベッド上）
・今日は実際に係ることが少ないポジショニングの仕方を学ぶことができたことで、ミールラウンドでの話し合いをもっと深く考えるようになりました。食事介助の仕方も正しい方法をしっかり学べ、職員の介助方法を再度確認したいと思います。
・嚥下評価時はもちろん、ベッドからの移乗時など嚥下だけでなく呼吸・発声にもつながるので姿勢からしっかり整えて臨床に入っていきたいと思います。
・ポジショニングを、現在、頸部前屈位を重点に病棟で取り入れているが、今日学んだポイントを少しづつ、伝達していきたいと思う
・施設職員一律に正しいポジショニングが出来るよう伝達していく。
・当院では、高齢者の患者様が多い為、ベット上や食堂での車いすでの食事介助などを、今回のセミナーを通して実際に体験し学び得たことが多くあった。現場で他のスタッフと協力し実施していきたいと考えている
・ポジショニングで使用しているクッションの代わりに、バスタオルを用いたりする工夫も、積極的に実践していきたい
・実践場面で活用することができるための、体制作りを考えている。首が固まってアゴが引けないことや義歯が合わない事、口から食べるサポート等
・車椅子摂食時、ステップから足を降ろす事をスタッフに徹底させる
・私は食事介助をしていませんが、口腔ケア時でも姿勢を正すことができると思うので、実践したいと思います。
・今まで介助が必要だった患者様の気持ちになって、ただしいポジショニングを行い、少しでも自分の力で食べていただけるように支援したい。
・車いすで食事する際のポジショニングは今後、座位での自立摂取を目標にしている患者さんに活用できると思いました。
・車いす上の介助（ポジショニング）　介助するペース　一部介助をする際のスプーンの持ち方
・食べる時のポジショニングを見て、意欲を引き出していきたいし、チームで取り組めていけれるようにしていきたい。
・ポジショニング、シーティングは多職種に伝えていきたい。

★スプーン操作
・食事介助の際の食材、スプーンの持ち方、舌の上に乗せる位置など実際にすぐに実践に繋げたい。

★食事介助スキル

・正しい食事介助を行えるスタッフを増やし、院内・患者さんにより良い介助ができる働きかけを行うことができそうです。
・毎日、食事介助を行っているので活用できると思います。開口しない方や円背の方などへのポジショニング・食事介助方法はすぐに明日から実践します。
・食事介助時の環境整備・介助を正しくできる。
・在宅で食事動作を練習する際に役立つを思いました。
・食事介助の時の調整や食事ペースの指導など
・当院ではすべての場合で、活用できると思います。食事介助時など、スタッフの意識、知識を高めてキルアップしていきたいと思う
・認知症入所者様への食事介助方法を実施することができる
・認知機能低下で口腔内にため込んでしまう方に対して、姿勢を含めてセルフケアが視覚的認知をもう少し改善できるのではないかと考えています
・明日からの食事介助に活用していきます。
・食事のすすまない患者様がなぜ食べないのか、なぜ食べれないないのか、その理由を考え整えていくこと

安心感を持っていただける様、食事介助で役立てたいと思います。

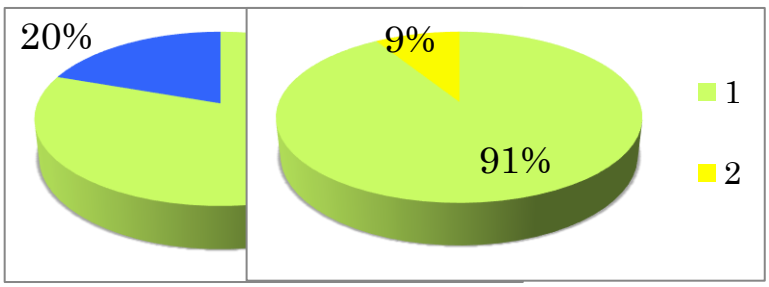
★スクリーニング

・嚥下スクリーニング方法
・改訂水飲みテストを自分で実施していく

★その他

・摂食嚥下の評価スケールについてKTバランスチャートを活用することで他職種で患者さんの状態について共有できるツールだと実感できた。
・実践時にレクチャーして頂いたものを仕事に活用していきます。
・食べられない原因の選択肢が広がった。
・食事介助対象者が多く、スタッフも交代で休憩に入るため、人的パワー不足である
・Ｄｒの絶食指示が長い時に臨機応変に意見が言えるようになっていきたい
・口腔ケアで訪問していますが、食事介助も行いたいとおもいました。
・病院内のスタッフに、今回の研修内容を理解してもらえるよう、指導していきたいと思っています
・管理側の人間であるため、これから自分自身が得た知識と経験を伝えていき、施設全体、社会全体の口から食べる支援の介護力を上げることに、少しでも貢献していければと思います
・多職種を巻き込みチームとして活用していくことが1番の目標。しかし、興味を持ってくれるスタッフが少ない為小山先生に来ていただき講義して欲しいと思いました。

ⅴ）今回と同じ基礎コースのセミナーが開催されれば，希望されますか？

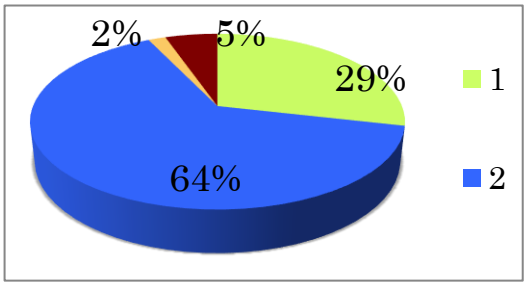


＜凡例＞
1. 受講したい
2. 受講しないが，周囲に受講を勧めたい
3. どちらでもない
4. 受講しない
6. 無回答

ⅵ）今後，KTバランスチャートに関しての研修会が開催されれば，受講したいですか

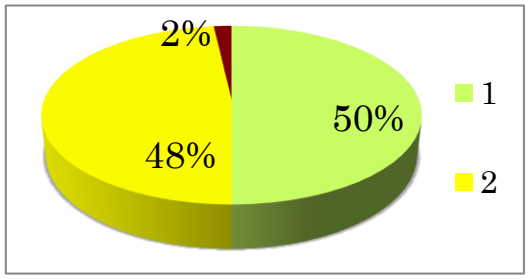
＜凡例＞
1. 受講したい
2. どちらでもない
3. 受講したくない
6. 無回答

vii）自分の施設で今回のような研修会を行いたいですか？



＜凡例＞
1. すぐ企画したい
2. サポートがあれば行いたい
3. 現状は難しい
4. 行わない
6. 無回答

viii）今後、KTSM 実技認定の受験を希望しますか？



＜凡例＞
1. 受験したい
2. どちらでもない
3. 受験したくない
6. 無回答

ix）何かお気づきの点や感想などありましたらご記入下さい.

・貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
・3回受講しています。回を重ねるごとに参加者が増えており、参加者の熱気が伝って,「自分も勉強しなくては！」という気持ちにさせてもらっています
・KTバランスチャートを今後,当院でも使用していこうかと思っているのですが、評価の時期などが分からない
・セミナーも常に進化しており、アドバイザーの人も勉強していると感じました。何度参加しても常に学びがあります
・とても適切に実技を教えていただき理解できました。患者側体験をさせてもらったら、もっと参考になったと思います
・介助者、患者側の体験をさせて頂き、それぞれの立場で考えることができ，いろいろな視点から考えさせられた。周囲へ伝達するときにも、体験できるような内容を取り入れていきたいと思う
・個人の相談にも即時に回答していただき、とても勉強になりました
・出来ないところを考えるのではなく強みを見つけてプラスにしていくという小山先生のお言葉に感銘を受けた。
・数少ない在宅領域ＳＴとして在宅で暮らす高齢者の摂食・嚥下を支えていきたいという思いをさらに強く持つことが出来た。
・職場のスタッフに伝えていく。
・机上と実践の違いを認識する事が出来た。
・時間が短かった，もっといろいろ実習に時間があればよかったです。
・もう少し時間が欲しかったです。自分に自信が得られる様、つなげていきたいと思います。スタッフの皆さま、今日はありがとうございました。
・他職員のコンセンサスが得られるまで時間がかかるとは思うが「継続は力なり」で粘り強く訴えていく
・まだまだ勉強をしなければならないことが多いと実感しました。「食べさせる」ことの難しさも知りました。
・スタッフの方の親切な対応で解らない事も聞く事が出来ました。ありがとうございました。
・小山先生に直接ご指導いただける大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。
・2回目の参加でしたが、前回の研修でも学んだことを実践に活かしていたつもりでしたが、出来ていないことも多かった為、今回再確認する事ができて、また明日からの支援に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・自分の臨床での視線を見つめなおすい機会をいただけました。基本的に向かうところは間違っていなかったのかなと感じています。一緒に頑張る仲間がもっと増えていくといいなと思いました。
・口腔ケアもそうですが、患者さんの立場となって患者さんの役になることはとともわかりやすいと思いました。
・また、参加させていただきます。

以上

●懇親会の風景

小山先生，竹市先生，宮崎のアドバイザー以外の他アドバイザーは，セミナー当日に帰路の途に着かれるとのことで，飛行機に搭乗される時間までの短時間ではありましたが，宮崎空港の会議室にて懇親会を開催いたしました．
宮崎の方々だけでなく，富山県，山口県，鹿児島県の方々もわざわざ残って下さいました．
今回の実技セミナーを主催しました口腔リハビリテーション研究会世話人も同席し，充実したセミナーを行えたことに，心から喜びを感じました．
食事および飲み物は，今回のセミナーにも協力くださった，「社会福祉法人キャンバスの会」，および同グループの「お弁当のまるよし」にお願いし，会場持ち込みいたしました．参加者みなさんが喜んで美味しそうに食べてくださったことは，さらに嬉しく思ったことでした．
小山先生，竹市先生の飛行機の時間ギリギリまで，皆で楽しくコミュニケーションを取り，摂食嚥下リハビリテーション・食事介入，医療についてなど，様々な内容を熱く語り合いました．
熱い思いを持ったメンバーが集まっておりますので，『じゃあ，次は！？』との話題も～♫
いや，宮崎ではもう３年目・３回目になりますと，もはやそれはもう当然の流れで，次回の予定，もっとやりたいことまでお願いした次第です．

最後に，皆で，『はい，ピース！』
小山先生，竹市先生．
楽しいひと時，セミナーにも勝るとも劣らない，有意義な時間をありがとうございました！
今日，学んだことは，明日から，いや今日から，実践の場に活かせるように頑張っていきます！！！

世話人でのセミナー準備，セミナー受講初挑戦
ST 阿部堅一の感想～♫

現在、宮崎市内のデイサービスに勤務しております。
今回初めて，くちリハ研究会の世話人としてセミナーの準備に携わり，私自身もセミナーを受講させていただきましたが、普段自分が行っている食事介助が「相手の立場になっているつもり」であった事に気付くことが出来たという点で、大変実りのあるものになりました。
特に習得した事の中で印象が大きかった３点を述べさせていただきます。

①まず姿勢ですが、頸部前屈や足底の安定などは当然の事として実施しておりましたが、例えば，円背の方へのタオルを使ったシーティングなど、これまで四苦八苦していたことを解決する事が出来ました。
②食べ物の配置について、利用者様にお皿を見せながら介助を行うまでは実施しておりましたが、五感を刺激しながら摂食機能を刺激する必要について「当たり前なのに出来ていなかった」事に気付く事が出来ました。
③スプーン操作について、舌と並行に挿入する事や舌への軽い圧刺激は行っておりましたが、利用者自身の手の動きに近い形で口まで運ぶのが、利用者の立場に立った介助であるという事や、麻痺の有無・指の力の入り具合によって介助方法は違ってくる事について、「介助する側・される側」の両方を経験することではっきりとしたイメージを持つ事が出来ました。

今回得た事および今後のセミナーで習得する事は私の場合、しっかり自分の物にした後にデイサービスの看護職員、看護職員にも浸透させる使命があります。デイサービス職員が一律に十分な摂食・嚥下の知識を持ちつつ正しい食事介助出来るようになる事を目標に置いて、今後のセミナーも積極的に受講したいと考えているとともに、くちリハ研究会世話人と協力して，今後のセミナーを大盛会にしていくよう尽力して参ります。

セミナーで司会係（ロリハ研究会世話人）
Ns. 金子美和の感想～♫

これまで 2 回 KTSM セミナーに参加しましたが、日頃の仕事で実践する機会が少ないためアドバイザーとして直接指導するのには不安がありました。しかし、宮崎の人に KTSM の知識・技術を知ってもらい一人でも多くの方に喜びを感じてもらいたいと思いがあり、今回は運営スタッフとして参加しました。
私は司会とタイムキーパー、サポータースタッフの取りまとめを任されていたため当日のセミナーが滞りなく、速やかに進行できることが何よりもの目標でした。今回初めてセミナーの運営を行ってみて反省すべきところも多くありましたが、次につながる形作りをしながらの作業でしたので、来年度はもっとスムーズにいけると確信しています。来年度は今の私にできる形で今年度よりもっと踏み込んだ形で KTSM セミナ―に関わっていきたいと考えています。
今回少し残念だったのは、私自身あまりにも「実習がうまく回ること」に一生懸命になりすぎて，先生方の指導やお話に耳を傾ける余裕がなかったことです。せっかくセミナ―の場にいたのに残念でした。来年度はもう少し心にも余裕ができると思うので、一緒に学ぶことができたらいいなと思っています。
これからも、私なりに頑張っていきます。ありがとうございました。

受講者の皆さん
小山先生，竹市先生，アドバイザー，サポーターの皆さん，学生ボランティアの皆さん

受講者の皆さん，大変お疲れ様でした.
また，お会いできることを楽しみにしております.
お互い，切磋琢磨して頑張っていきましょう♫

口腔リハビリテーション研究会
代表　清山美恵